

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-355414

(43) 公開日 平成11年(1999)12月24日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

H 0 4 M 1/23

H 0 4 M 1/23

Z

G 0 6 F 3/02

3 2 0

G 0 6 F 3/02

3 2 0 H

H 0 4 M 1/274

H 0 4 M 1/274

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平10-160199

(22) 出願日

平成10年(1998)6月9日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 小島 進

神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地株式

会社日立製作所家電・情報メディア事業本  
部内

(72) 発明者 平本 誠

神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地株式

会社日立製作所家電・情報メディア事業本  
部内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

最終頁に続く

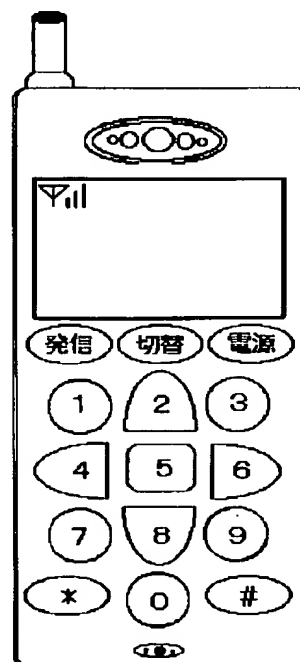
(54) 【発明の名称】 電話機

(57) 【要約】

【課題】 上記従来技術では、番号を入力する手段とカーソルを移動させる手段を、別々に各々キーとして配置していたため、キーの数が増えていた。そのため、誤操作が増えてしまうので、ユーザにとって使い勝手が悪い。また、上記従来技術では、キーの数が増えてしまうので、電話機としての大きさを小型化するのが困難であった。

【解決手段】 上記課題は、携帯電話等の電話機に、番号を入力する手段と、カーソルを移動させる手段を切り替える手段を有することにより達成される。この番号を入力する手段と、カーソルを移動させる手段を切り替える手段を使用して、この番号を入力する手段と、カーソルを移動させる手段を切り替えることにより、キーの数を減らすことができる。それにより、ユーザの誤操作を減らし、電話機としての大きさを小型化することができる。

図 2



**【特許請求の範囲】**

**【請求項 1】** 番号を入力する手段とカーソルを移動させる手段を有する電話機において、番号を入力する手段とカーソルを移動させる手段を切り替える手段を有することを特徴とした電話機

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【発明の属する利用分野】** 本発明は、携帯電話等の電話機でのキー操作方法に関するものである。

**【0002】**

**【従来の技術】** 従来の携帯電話等の電話機では、番号を入力する手段とカーソルを移動させる手段を、別々に各々キーとして配置していた。

**【0003】**

**【発明が解決しようとする課題】** 上記従来技術では、番号を入力する手段とカーソルを移動させる手段を、別々に各々キーとして配置していたため、キーの数が増え、誤操作が増えるので、ユーザにとって使い勝手が悪い。

**【0004】** また、上記従来技術では、キーの数が増え、電話機としての大きさを小型化するのが困難であった。

**【0005】**

**【課題を解決するための手段】** 上記課題は、携帯電話等の電話機に、番号を入力する手段と、カーソルを移動させる手段を切り替える手段を有することにより達成される。

**【0006】** この番号を入力する手段と、カーソルを移動させる手段を切り替える手段を使用して、この番号を入力する手段と、カーソルを移動させる手段を切り替えることにより、キーの数がへ減る。従って、ユーザの誤操作が減り、電話機としての大きさを小型化することができる。

**【0007】**

**【発明の実施の形態】** 以下に、本発明について実施例に従って、詳細に述べる。

**【0008】** 図 1 において、(101)は、情報サービス情報を選択するための入力部である。

**【0009】** (102)は、本発明による入力切替制御部である。

**【0010】** (103)は、表示装置である。

**【0011】** (104)は、各種データ等を保存する補助記憶装置である。

**【0012】** (105)は、番号を入力するための番号入力部である。

**【0013】** (106)は、カーソルを移動させるためのカーソル移動部である。

**【0014】** 図 2 に本発明における電話機の 1 実施例を示す。本実施例では、「切替」ボタンを用いて、番号入力モードとカーソル移動モードを変更する。

**【0015】** 図 3 に番号入力モード時の表示装置 (103)

の表示例を示す。表示装置の 1 番上に、番号入力モードを示す「数字」と表示する。

**【0016】** 図 4 にカーソル移動モード時の表示装置 (103) の表示例を示す。表示装置の 1 番上に、カーソル移動を示す十字方向のアイコンを表示する。

**【0017】** 図 5 に本発明による入力切替制御部 (102) の処理を、プログラム流れ図を用いて説明する。

**【0018】** 入力切替制御部 (102) は、「切替」キーが押されたときに呼び出される。まず、入力切替制御部 (102) は、入力モードが「0」か否かを判断する (1021)。入力モードは、補助記憶装置 (104) に保存される変数である。

**【0019】** 入力モードが「0」場合、番号入力部の処理を行う (1022)。

**【0020】** その後、入力モードに「1」を設定する (1024)。

**【0021】** 入力モードが「1」場合、カーソル移動部の処理を行う (1023)。

**【0022】** その後、入力モードに「0」を設定する (1025)。

**【0023】** 図 6 に番号入力部 (105) の処理を、プログラム流れ図を用いて説明する。

**【0024】** 番号入力部 (105) は、キーの入力待ちを行う (1051)。

**【0025】** キーが押された場合、押されたキーが「0」以上「9」以下か判断する (1052~1053)。

**【0026】** キーが押された場合、押されたキーが「0」以上「9」以下の場合、入力された番号を、表示装置 (103) に表示する (1054)。

**【0027】** 押されたキーが「\*」の場合、「\*」を表示装置 (103) に表示する (1055~1056)。

**【0028】** 押されたキーが「#」の場合、「#」を表示装置 (103) に表示する (1057~1058)。

**【0029】** それ以外の場合は、選択された機能を実行する (1059)。

**【0030】** 図 7 にカーソル移動部 (106) の処理を、プログラム流れ図を用いて説明する。

**【0031】** カーソル移動部 (106) は、キーの入力待ちを行う (10601)。

**【0032】** キーが押された場合、押されたキーが「0」以上「9」以下か判断する (1062~1063)。

**【0033】** キーが押された場合、押されたキーが「0」以上「9」以下の場合、押されたキーが「2」の場合、カーソルを上へ移動する (10604~10605)。

**【0034】** 押されたキーが「4」の場合、カーソルを左へ移動する (10606~10607)。

**【0035】** 押されたキーが「6」の場合、カーソルを右へ移動する (10608~10609)。

**【0036】** 押されたキーが「8」の場合、カーソルを下へ移動する (10610~10611)。

【0037】押されたキーが「\*」でも「#」でもない場合、選択された機能を実行する(10612~10614)。

【0038】

【発明の効果】本発明によれば、番号入力キーとカーソル移動キーを切り替えて使用することができるので、キーの数が減る。それにより、ユーザの誤操作が減るため、使い勝手が向上する。また、電話機の大きさも小型化することができる。

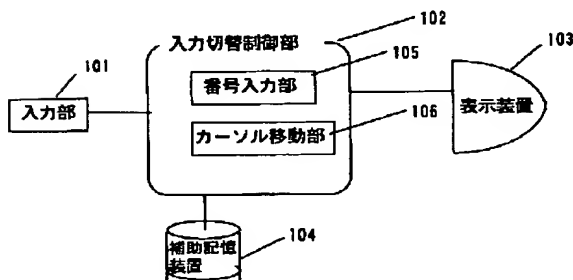
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す構成図である。

【図2】本発明における電話機の1実施例である。

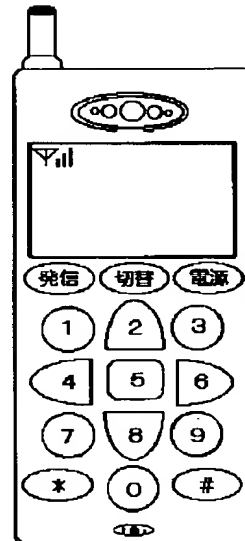
【図1】

図 1



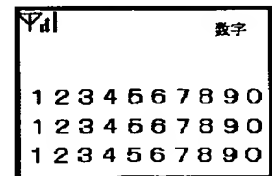
【図2】

図 2



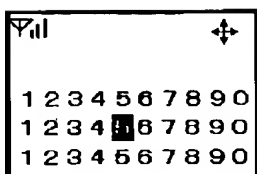
【図3】

図 3



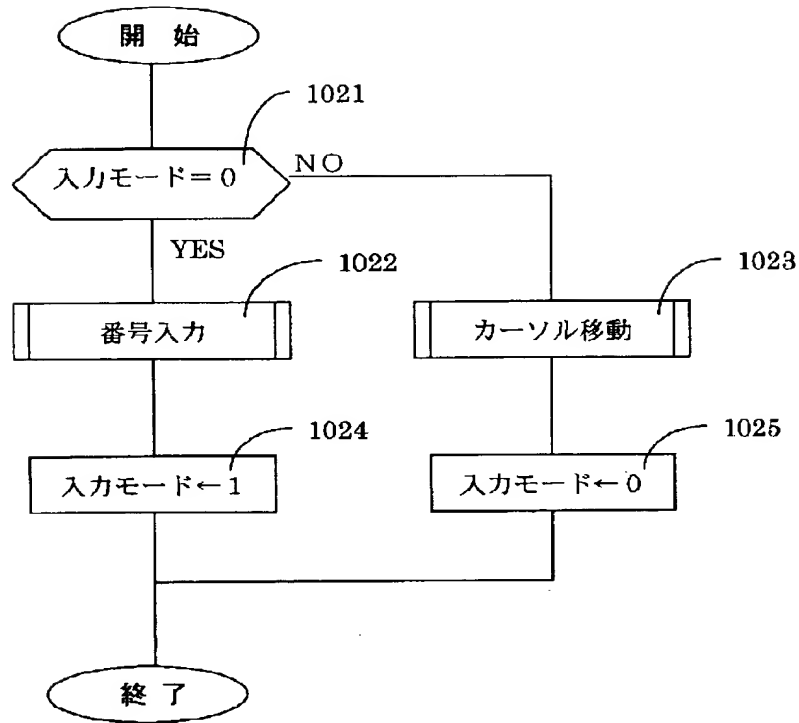
【図4】

図 4



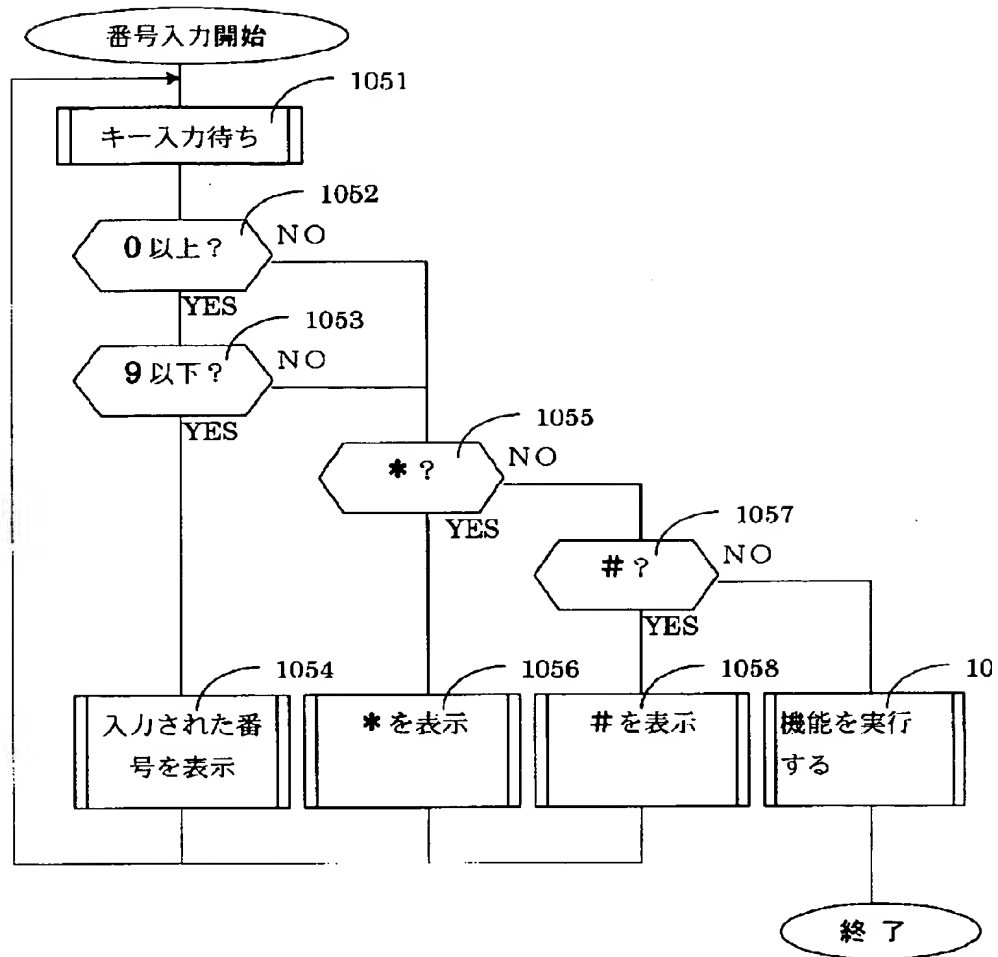
【図 5】

図 5



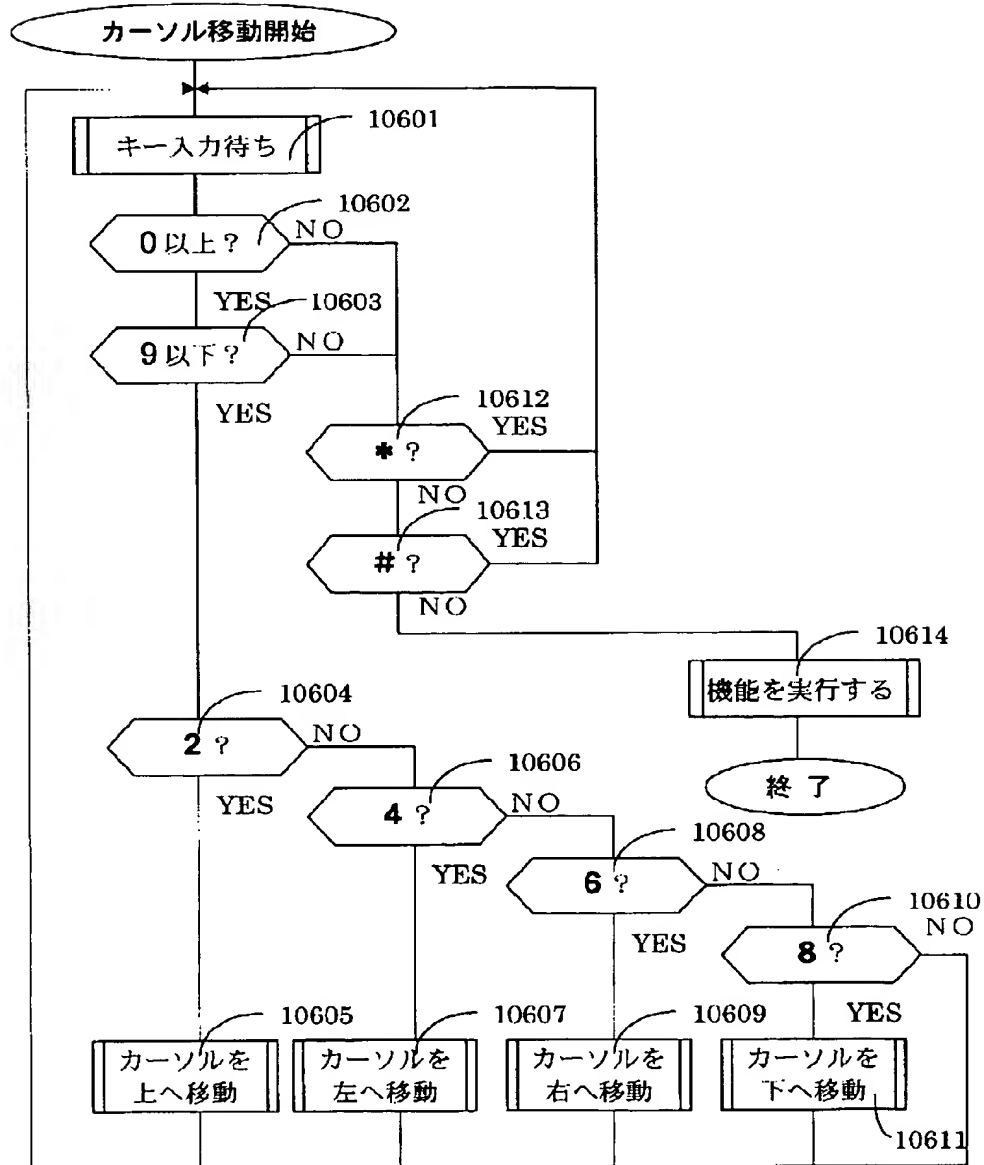
【図 6】

図 6



【図7】

図7



フロントページの続き

(72) 発明者 ▲吉▼田 伸一

神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地株式  
 会社日立製作所家電・情報メディア事業本  
 部内